

平成 30 年度第 2 回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事要旨

| | | | | |
|-----------|--|-------|---|--------|
| (1)会議名称 | 平成 30 年度第 2 回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 | | | |
| (2)開催日時 | 平成 30 年 8 月 27 日 13:30~16:00 | | | |
| (3)開催場所 | 我孫子市役所 議会棟 第 1 委員会室 | | | |
| (4)出席者 | 委員 | | | |
| | 出 | 林 健一 | 出 | 高橋 裕子 |
| | 出 | 小澤 誠一 | 欠 | 山岸 由紀子 |
| | 出 | 坂巻 弘一 | | |
| | 事務局 | | | |
| | 【企画課】相良主幹、滝川主査、塚田主査 | | | |
| (5)議題 | 1. 平成 29 年度地方創生推進交付金の活用における効果検証について 2. 重要業績評価指標 (K P I) の見直しについて 3. 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中間評価について 4. 今後のスケジュールについて ・10 月 2 日午前・・・第 3 回有識者会議 (グループワークによる評価) ・10 月 31 日・・・第 4 回有識者会議 (評価のまとめ、市長への報告) 5. その他 | | | |
| (6)公開・非公開 | 公開 | | | |
| (7)傍聴人の数 | 0 人 | | | |

(8)会議の内容

1 平成 29 年度地方創生推進交付金の活用における効果検証について

第 1 回会議で効果検証シートの事業内容について事務局から説明したが、改めて事業ごとに実績値等を確認し、検証を行った。

意見等

■ 「日本女子オープンゴルフ選手権 (以下、「ゴルフ選手権」という) におけるあびこ P R プロジェクト」では、過去 10 回のゴルフ選手権の来場者数をもとに検証していく。昨年に我孫子ゴルフクラブで開催されたゴルフ選手権は初日が大雨という中で 4 日間の来場者数が合計で 30,298 人であった。過去 10 回のゴルフ選手権の中では、歴代 5 位の来場者数ということになる。この事業は「地域資源を活用したスポーツ推進事業」という施策に位置付けられているが、シティーセールスや我孫子の魅力発信という観点にも繋がる。4 日間という短い期間ではあったが、多くの来場者に対し様々なイベントが行われ我孫子市の魅力を周知できたということの評価できるデータかと思う。このことを踏まえ、K P I に対し、「①大いに効果があった」「②効果があった」「③あまり効果がなかった」という評価をすることになるが、各委員のご意見はいかがか。

(林委員長)

■ 私は 4 日間会場にいたが、初日はものすごい大雨だった。屋外のイベントは天候に左右されるので雨対策や屋内のイベントがあればもっと来場者が増えたのではないかと。

ゴルフ選手権が終わった後に、また我孫子で開催してほしいという声があった。(高橋委員)

- K P I の達成に向けてはどうか。「大いに効果があった」という評価は難しいが、「あまり効果がなかった」というわけではない。これから他の事業について検証していく中で、お気づきの点があったらまた伺うとして、この段階では「②効果があった」という評価でどうか。(林委員長)
- これまでのスポーツイベントで、市役所だけでなく地元商店会や多くの市民が関わって市を挙げて盛り上げることはなかった。事前にプロジェクトチームを立ち上げて一致団結して取り組んできたということも評価できる。市民ではない私自身も我孫子市のいろいろなことを知る機会となった。(高橋委員)
- ゴルフ選手権自体は大いに盛り上がったことと思うが、K P I となっている「アビシルベ」の来訪者数を見ると、ゴルフ選手権が開催された9月、10月のうち9月は前年度より人数が減少してしまっている。また、もう一つのK P I である親水広場の入場者数は、県から移管を受けたばかりで前年度との比較がしづらい状況となっている。そのためゴルフ選手権をK P I 達成の手段として見たときに、3万人を超える来場者があったとはいえ、「大いに効果があった」とまでは言い難いように思う。(小澤委員)
- 小澤委員のご意見を聞いて、地域資源を活用したスポーツ推進という観点でK P I の達成に寄与する新たな事業が必要と感じた。有識者会議でそういった事業が提案できないか。(林委員長)
- 来年度以降に向けて検討が必要かもしれない。星野市長が、先日、知事と市町村長との意見交換会において、手賀沼トライアスロン大会が盛況であったとお話しされていたが、そのような地域資源を活用したイベントを通じて、アビシルベや親水広場の来訪者を増やす仕掛けを検討できるとよい。(小澤委員)
- 市としても、集客ができるイベントを活用していく必要性を感じている。(事務局)
- トライアスロンだけでなく、手賀沼といえばサイクリングやランニング・ジョギングといったイメージも浸透しつつあるのではないか。(小澤委員)
- K P I に関連させれば、交付金を活用しつつ地方創生、地域活性に繋がる新たな事業ができると思う。(林委員長)
- スポーツ推進事業ではないが、我孫子には大正時代に白樺派の文人たちが住んでいて、白樺文学館といった文化施設がある。そういう施設は入らないか。(高橋委員)
- 現状、運営費としての事業費はあるが、交付金の対象となる新たな取り組みは行われていない。啓発や案内のための看板を新たに設置するといった事業などがあれば、交付金対象事業を申請することができる。(事務局)
- アビシルベで、「文豪とアルケミスト」という白樺派も含めた文人たちをモチーフにしたゲームの等身大パネルを展示したときに、市外からファンが訪れ、我孫子市のまち歩きマップがなくなったという話を聞いた。我孫子市を全く知らない人も、マップや道路の案内板があれば、まち歩きが出来るのではないか。(高橋委員)
- ゴルフ選手権について、市を挙げて大々的に取り組まれており、事業全体としては効果があったことと思うが、交付金を充当した事業だけで評価するとすると、つらいところがある。交付金事業について、②「効果があった」という評価をしつつ、事業全体

として大きな成果を得ることができたというコメントを付記してはどうか。(小澤委員)

- 私も、積極的にPRしたことで3万人以上の来場者があり、その側面支援として、この事業でこんなことを行ったという書き方がいいかと思う。これだけ大きな事業が成功したので、KPIには繋がらなくても広い意味での地方創生や交流人口を確保するきっかけづくりはできた。そういったことを取り組み内容に記載できればいいのではないか。有識者の評価コメントとしては、「KPIの達成に直接的に寄与はしていないが、地方創生推進交付金の大きな目的を達成するにはかなり有効だったのではないか。」という内容でどうか。(林委員長)
- 同意の声(委員一同)
- では、評価については、「②効果があった」とし、先ほど言った内容で評価コメントをつけるということにする。(林委員長)
- 次に2について親水広場と鳥の博物館の来場者数が関連するデータとしてそれぞれ示されている。特に②の「鳥の博物館での特別企画展の実施」は、鳥の博物館の来場者数に直接結びついている。鳥の博物館の特別企画展を実施した7月から11月までの来場者数は、平成28年と比較すると約1,700人増加している。親水広場では、水の館の来館者数が437,644人であった。数字で見るとこの人数はかなり多いという印象を受ける。(林委員長)
- 以前の千葉県が運営していた時の来場者数はどれくらいか。(小澤委員)
- 10万人弱であったので、約5倍に増えた。(事務局)
- 10月の来場者数が極端に少ないのは、台風が2回直撃したことや雨が多かったことが原因と考えられる。鳥の博物館も企画展の期間中であったが、やはり10月は来館者が少なかった。(事務局)
- 鳥の博物館の企画展は毎年実施しているが、昨年は酉年ということから、子どもが多く来る夏休みから11月のジャパン・バード・フェスティバルまでと例年より長い期間を設けた。(事務局)
- 施設の来場者の意見や要望を聞くためのアンケートボックスなどは設置しているのか。(高橋委員)
- 確認する(事務局)
- 利用した方の要望などを聞いて改善していけば、良くなっていくのではないか。来場者の方の目線で感じた意見をいただいたほうがいい。(高橋委員)
- 鳥の博物館は日本で唯一の鳥専門の博物館であるため、地方創生をしていく上でとても貴重な施設であり財産である。高橋委員が仰ったとおり、手賀沼周辺を魅力ある地域にしていくために核となる施設であるため、来館者の意見も事業に反映していただきたいと思う。また、グッズの売り上げを見ると、29年度の1年間で約390万円の売り上げがあるということで、小さな売店でそれだけの売り上げがあるということは、潜在能力はあると思うので、地方創生の核として活用していただきたい。交付金を活かして企画展だけでなく、ほかのことも必要かと思う。(林委員長)
- 我孫子には鳥の博物館だけでなく白樺の文人たちの足跡など、他の地域にはないものがあるので、それらを総合して活性化を図るような取り組みができると良い。(高橋委員)

員)

- ターゲットを子どもとスポーツにして、他の事業とタイアップするなど工夫すれば、人が集まってくるかもしれない。子どもが参加するスポーツイベントには、両親や祖父母も来るので人が多く集まる。(坂巻委員)
- 鳥の博物館の特別企画展はK P I ①の達成に直接結びついている。「水辺のランニング・ウォーキング環境の整備」としてランニングマップを作成したことはどうか。(林委員長)
- 鳥の博物館の特別企画展は大いに効果があったことと思うが、じゃぶじゃぶ池の改修に係る設計が繰り越され、事業が完了していないことを考えると、全体としては、K P I の達成に「大いに効果があった」とまでは言いにくく、これも「効果があった」という評価になるか。(小澤委員)
- これから効果が出そうな期待は持てるが、まだ実施していない事業がいくつかある。そのような中で、小澤委員が仰ったとおり「大いに効果があった」とは言いにくい。(林委員長)
- 「有識者の意見」としては、日本唯一の鳥専門の博物館やウォーキング、ランニングだけでなく、子どもたちが楽しめる事業を作り出しつつ、手賀沼沿いに人が訪れる場所を作ってほしいといった意見でどうか。じゃぶじゃぶ池の改修が完了すれば、夏には子どもが多く来るため、賑わいが期待できる。この事業については、K P I の達成に「効果があった」ということでどうか。(林委員長)
- 同意の声 (委員一同)
- 続いて、「我孫子の魅力発掘・発信・シティーセールス推進事業」について検証したい。情報発信に関連する実績として、アビシルベの月別の入館者数と市のホームページのアクセス数も資料として提示されている。前回の会議では、ブックカバーについてご意見があったがいかがか。(林委員長)
- シティプロモーションの効果というのは非常に見えにくいところである。昨年の有識者会議では、かなり厳しいご意見をいただいた。費用対効果が非常にわかりづらい事業なので、事務局としても、様々な数値を確認したが、個別の事業で効果を確認するのは難しい。トータルで見て、今回お示した人口の増減の資料における社会増が伸びているということで、少なからず我孫子市のPRが出来ていると考えている。転出者へのアンケートでも、転勤や親の介護など、やむを得ない事情により転出している人が多く、我孫子市に不満があるわけではなく、よかったところを挙げている人が多い。転入者については、保育園に入れる、住みやすい、住宅が購入しやすいなどを理由に来ている人が多い。そのような状況を踏まえ、評価していただければと思う。(事務局)
- 人口増減のデータを見ると、社会増減がプラスになっており、転入超過しているということがわかる。(林委員長)
- 電車の中吊り広告で、我孫子は「始発の駅で座って通勤できる」「霞が関まで乗り換えなしで行ける」というのをマンションの売り文句にしている。所要時間も40分以内で自然も多く、とてもいいと思う。都心を走る千代田線に直通しているというのは強みになる。(高橋委員)

- シティーセールスの直接の効果は見えづらいが、社会増減がプラスになっているところを見ると、少なからず効果が出ていると言える。(林委員長)
- 我孫子の魅力を発信して、我孫子を知ってもらい、来てもらい、気に入ってもらい、住んでもらうというのが目標である。K P I 達成という面では直接評価はしづらいが、③の「あまり効果がなかった」とは言えない。①の「大いに効果があった」、②の「効果があった」のどちらにするかは悩ましいところである。社会増になっているが、必ずしも施策によるものではないと思う。(林委員長)
- もう一つのホームページのアクセス数については、29年度から実施したホームページの3か国語対応により、我孫子市在住の外国人の方が1割程度閲覧してことから徐々に閲覧数は増えている。30年度はベトナム語のページを追加しているが、もう少しP Rが必要かと思う。(事務局)
- ベトナム人が増えているということか。仕事できているのか。(高橋委員)
- 仕事より、学校に通うベトナム人が多い。市内に日本語学校ができています。また、外国人の研修制度が設けられており、介護職などで研修生を受け入れている。ベトナムの方は勤勉で真面目ということで、積極的に受け入れているという現状がある。(事務局)
- 市として、外国人の方への生活の支援は行っているか。(高橋委員)
- ホームページの外国語対応などで、日本や我孫子の生活についてお知らせしている。また、学校でのサポートなど言葉の壁の対応をしている。(事務局)
- 外国人が増えることは、人口の維持による社会の維持という面ではいいが、集住対策など、別の課題が出てくるかもしれない。いずれにしろ、今回のK P Iの達成に直接つながっているものではない。総合戦略の施策評価であれば大いに効果があったと言えるかもしれないが、K P Iの評価として「大いに効果があった」とは言いにくい。コメントとしては、ホームページの改善や社会増など、施策の効果が少しずつではあるが、現れてきているということが言える。やはり、これも②の「効果があった」ということになるか。(林委員長)
- 八景のマップの作成自体は面白い取り組みで、内容も良くできていると思うが、効果としてはどうであったか。(小澤委員)
- 29年度に作成し、今年度以降にマップを使って散策会を実施していく。(事務局)
- 転入者へのアンケートなどは実施しているか。アンケートを通じて転入の理由などを把握していれば、事業の効果を分析できるのではないか。(小澤委員)
- 平成30年1月から、転入届を出した方を対象に任意のアンケートを実施している。その中で、我孫子に来たきっかけも回答していただいている。随時集計をしており、シティーセールスの部分も、大型ビジョンや車内広告など、どれを見たか設問の中で確認している。実際、そういうものを目にしたという方は10数パーセント程度である。今後、情報発信の手法については、検討していく必要がある。(事務局)
- 平成26年度に「あびこの魅力発信室」がスタートし、5年目を迎えた。これまでは都内を中心にシティーセールスをしてきたが、茨城や埼玉からの転入者も多いため、アンケート結果を基にシティーセールスの対象を改めて検討し、実施していく必要がある。(事務局)

- 次に、4の「移住・定住促進につなげるための雇用拡大事業」について検証したい。これも、直接K P Iに繋がる事業ではないが、移住・定住を促進するために地域に仕事を作るという重要な事業である。これについて、直接効果が確認できるデータは特に用意されていない。人口の社会増については、この事業も影響しているかもしれない。他の事業と同様に評価しにくいところではある。(林委員長)
- 相談会、交流会への参加者数と、相談会参加者のうち実際に起業した人数を記載している。(事務局)
- 2名起業したというのは、すごいことであるし、効果があったという評価で良いと思う。ただし、起業後にどうなっていくかも重要である。今後、起業した方に講演をしていただいたりするのも良いのではないか。(小澤委員)
- この事業も、K P Iの達成には直接繋がっていないが、事業の効果は出ていると言える。評価としては、これも同じになるが、②の「効果があった」ということになるか。(林委員長)
- 理想としては、我孫子市の経済の一翼を担うような企業になってもらいたい。(林委員長)
- K P Iの達成にどれだけ効果があったかを評価するということだと難しい面もあるが、地方創生の推進には資するものなので、②「効果があった」と評価して良いのではないか。(小澤委員)
- では、B班では②の「効果があった」とし、直接K P Iの達成には繋がっていないが、地方創生の大きな目標には寄与していくので、さらに雇用拡大につながるよう期待したい。(林委員長)

2 重要業績評価指標（K P I）の見直しについて

産業拠点創出事業取組み地区数の変更について事務局より説明を行った。

意見等

- 29年度に産業拠点検討調査を実施した。市内10か所の調査対象地区から4地区を絞り込み、企業等が進出できるかを調査した。前回の会議で市としては工業系土地利用に適した柴崎地区、商業系土地利用に適した下ヶ戸地区の2地区での企業の誘致に向けて取り組んでいきたい旨をお伝えしたが、その後、企業立地推進課と市長、副市長同席のもと協議をしたところ、下ヶ戸地区については、現状、ほとんどが農地であり、商業用地として活用していくための手続きに時間がかかることから、まずは、柴崎地区で工業系の土地活用を進めていくこととなった。下ヶ戸については、立地に関する問い合わせ等もあるため、今後も企業を誘致していけるよう調整していくが、31年度までのK P Iの設定となると、柴崎地区の1地区のみが現実的である。そのため、K P Iは前回2とお示ししたが、1に変更し、決定としたい。(事務局)
- 同意の声 (委員一同)

3 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中間評価について

基本目標 3・4 グループ

- 「結婚・妊娠・出産・子育てまでの継続的支援」についての施策について評価していきたい。1つ目の施策の「出会いから結婚を実現させるための協力支援」では、2つの事業ともにKPI達成となっている。2つ目の施策の「安心して妊娠・出産・子育てできるための環境づくり」では、3つの事業のうち「特定不妊治療助成件数」が遅延となっている。3つ目の施策の「母子保健・予防接種の充実」では、「市独自の予防接種を行った子どもの割合」、「フッ素洗口実施者数」で遅延となっている。本来であれば、全てを細かく議論するのが望ましいが、限られた時間での議論となるため、まずは遅延した事業についてご意見をいただき、その後、残った時間で全体的に実施状況などを見ていきたい。(林委員長)
- まず、「特定不妊治療助成件数」を見ると、達成率はマイナス44%で達成状況が遅延である。この事業は、もともと県の事業の上乗せした事業だが、年齢や回数制限が設けられるなどにより、利用状況が伸びていないという現状がある。(林委員長)
- 同じように、「市独自の予防接種を行った子どもの割合」も遅延となっている。これはインフルエンザやロタウイルスの予防接種を受けた子どもの割合で、政策的な理由ではなく、インフルエンザワクチンの供給不足により接種数が減少したものと思われる。(林委員長)
- 事業を評価する際に、行政の取り組みに問題がないかを見る部分と、社会の状況や利用状況の変化により目標が達成できていないものもある。(林委員長)
- その他に「フッ素洗口実施者数」も遅延となっているが、これら遅延となった3つの事業について皆さんのご意見を伺いたい。(林委員長)
- インフルエンザの予防接種は、ワクチン供給のタイミングや新種のウイルスが出たかななどの理由で数が左右される。近年は大きな流行はないので、接種数も落ち着いている。そういう意味では、数が増えればいいという事業でもない。(事務局)
- 感染予防事業として重要ではあるが、遅延しているからあれこれ工夫するという事業ではないと思う。(林委員長)
- 「特定不妊治療助成件数」と「市独自の予防接種を行った子どもの割合」についてはあくまで外的要因により遅延となっているものとして整理すれば良いだろう。「フッ素洗口実施者数」は実施人数ではなく実施率でみた場合にはどうか。子どもの数が増えていない中で、実施人数が減ってしまうのはある程度やむを得ず、実施率が伸びていれば良いだろう。(小澤委員)
- 市内のできるだけ多くの園で実施という指標もあり得る。(林委員長)
- 実施している園は増えていると思う。(坂巻委員)
- 長いところで、始めてから5年くらいが経過している。そろそろ効果が現れてくるので、それをデータとして出せば、現在実施していない園も実施するようになるのではないか。(坂巻委員)
- 次回までにフッ素洗口の実施園をご提示する。(事務局)
- 場合によっては、よりの確に事業の評価を市民の方にしていただけるよう指標の見直しが必要と考える。(林委員長)

- 指標については、必ずしも増えていかないものなどもあることから、見直しをしたい。(事務局)
- この3つの遅延については、取り組み上の問題ではないことが確認できた。この他にKPIを達成した事業の中で確認したい点や来年度の当初予算に繋がるような提案があれば伺いたい。(林委員長)
- 「婚活イベント・講座の開催回数」については、昨年度の会議でも「回数を増やすだけでなく、内容の見直しが必要」という意見が出ているが、アンケート結果をよく精査し、具体的にどう改善していくのかを十分検討したうえで、当初予算につなげていくことが必要であると思う。また、「婚活事業による年間婚姻数」については、成婚した11組の半分以上が市外に居住している。折角、イベント等を開催しても、市内居住にあまり結びついておらず、今後、そうならないための工夫を凝らしていく必要があるのではないか。(小澤委員)
- もともと参加者の7割が市外在住の方である。事業の特性なのか、住んでいる市では登録しない方が多い。過去には一度、我孫子に住みたい人限定のイベントを実施したこともある。定住に繋げる取り組みやPRが必要である。(事務局)
- 個別の事業で見ると、婚活イベントや婚姻数については、一定の成果は出ているが事業の見直しが必要で、今後どう改善していくかなど、次回以降確認していきたい。遅延している事業については、遅延の理由が社会状況等の外的要因によるものなので大きな問題点の指摘はなかったということでもよろしいか。有識者の評価については、婚活イベントのアンケート内容が確認できていないが、順調とってよろしいか。個別の意見については、基本目標ごとに意見を伺う機会があるので、その中で確認したい。「(1)結婚・妊娠・出産・子育てまでの継続的支援」については、今日のところは「1.順調」という評価としたい。(林委員長)
- 続いて、「(2)子育て世帯への支援の充実」について、遅延した事業を確認していくと、「子ども総合相談全相談件数のうち終了した割合」、「父親対象のイベント開催回数」、「病児・病後児保育の年間延べ利用人数」の3つが遅延となっている。(林委員長)
- まず、「(2)子育て世帯への支援の充実」の遅延について確認していく。達成率がマイナス23%で、要因としては、新規の受付件数自体が減少したこと、継続的な相談件数が増えており、相談内容の複雑化、深刻化が進んでいることなどが挙げられている。(林委員長)
- ここでの「相談の終結」とは、なにをもって終結したということになるのか。「事業の展開方法」の欄に、「必要に応じて適切な専門機関に繋げる」とあるが、専門機関に繋いだ時点で終結したということになるのか。(小澤委員)
- そうではない。(事務局)
- そうなると、終結した割合を増加させるのは容易なことではないだろう。専門機関に繋がったことで市としての一定の役割を終えたということではできるのか。(小澤委員)
- ケースによるため、一概には言えない。関係機関もいろいろあるため、所管の子ども相談課から離れない場合もある。達成率が低いのは、継続している案件が多いことが原因と思われる。不登校の案件がいじめの案件になるなど、別の要因が見えてきた場合も継続となるため、なかなか終結に至らないケースもある。(事務局)

- K P I はあくまで「終結した割合」となっているが、必ずしも終結さえすれば良いというものでもないように思える。継続して相談を受けていくことが必要な場合もあるだろう。(小澤委員)
- これについては昨年も議論しているが、指標としては終結したことを良しとする結論となった。しなしながら、委員が仰ったように継続してみていくという視点が求められてもいるので、単に終結数が増えれば良いということではない。(事務局)
- 昨年は、再発数も確認した。一度終結しても、別の案件として再発するケースも多い。昨年は再発数がそれほど多くなかったので、K P I を変更しなかった。(事務局)
- ある一定期間に何もなければ終結となるが、それが良いのかどうかという議論はあるかと思う。(事務局)
- 事務事業評価表の指標はどうか。(林委員長)
- 相談受付件数かもしれない。確認する。(事務局)
- 適切な指標の設定が難しいのであれば、達成状況の捉え方を見直してはどうか。実績が目標値に近い値であっても、機械的に算出すると達成率が低くなり、その結果、達成状況が遅延になってしまうものがある。そういったものが、単に遅延とだけ受け止められてしまうのはどうかと思う。(小澤委員)
- 評価については、全体的に達成状況だけでなく、事業内容や実績値を見ていただければと思う。内容について昨年と変わった点は、次回ご報告する。(事務局)
- 「父親対象のイベント開催数」については、情報誌による父親への情報提供や様々なイベントを開催しているが、達成率は遅延となっている。(林委員長)
- 開催数が目標値より 3 回少ないことから遅延となっている。少なかった理由を確認する。(事務局)
- 「病児・病後児保育の年間延べ人数」も 29 年度実績値が 264 人でマイナス 253% となっている。これも達成率で見ると低いですが、病院別の人数で見ると 2 院のうち、名戸ヶ谷病院については、人数が増えている。平和台病院で若干減少しているため、達成率としては低い結果となった。(事務局)
- これは前からご意見をいただいております、所管課へは工夫するよう伝えている。これまで、受け入れ要件の緩和やキャンセルの連絡が遅れた場合のペナルティの設置など、より多くの病児・病後児を受け入れられるよう工夫をしてきたが、保育士の確保が難しいことや、違う種類の感染症の子どもが来た場合、部屋に限りがあるため、全員を受け入れられないこともあることから、29 年度は減少している。(事務局)
- 病児・病後児保育の利用人数が減ること自体は必ずしも悪いことではないと思うが、K P I を「実際に受け入れた人数」ではなく、「受け入れ可能な人数」に変更した方が良いのではないかと。(小澤委員)
- 病気の子どもの少なければ利用人数が減るので、その場合は良いこととなる。(事務局)
- キャンセルについてペナルティを課すこととしたようだが、結果的に親が休みをとれたために、預かりが不要となった場合などは逆に望ましいことではないのか。(小澤委員)
- とりあえず予約しておくという方がいるため、それを防止するためのペナルティで、正当な理由があればペナルティの対象とはならない。(事務局)

- 昨年も指摘があり、受け入れ率も確認したが、実際には様々な要因によりお断りをしている状況なので、「受け入れられる人数」が増えれば「利用数」が増える状況となっている。(事務局)
- 病院を増やすのは難しいのか。(高橋委員)
- 病院の部屋数と保育士の確保が必要である。保育園の保育士も不足している状況なので、保育士の確保が一番の課題かもしれない。(事務局)
- 遅延となっている3つの事業について次回までに確認しておきたい事項についてご意見をいただきたい。遅延となっているのは「不登校の出現率」、「小中一貫共通カリキュラムの実施率」、「学校への支援ボランティアに参加した延べ人数」である。まずは、「不登校の出現率」の遅延についてご意見をいただきたい。(林委員長)
- 不登校とされる日数に基準はあるのか。(坂巻委員)
- 確認する。(事務局)
- 不登校の子が集まれる場所はあるのか。(高橋委員)
- 湖北地区公民館の隣に「ヤング手賀沼」という不登校児が通う施設がある。ここに来ると勉強を教えてくれる先生がいて、学校の出席日数としてカウントされる。(事務局)
- 「ヤング手賀沼」の他に、心の教室相談員を全小学校に配置している。(事務局)
- 指標の元となる事業は、教育研究所からアドバイザーを派遣して相談を受けるというもので、結果として不登校を減らすことや不登校にならないようにするため、出現率を施策の指標にしていたかと思う。(林委員長)
- 不登校には様々な要因があり、市の施策だけで減らすのは難しいと思う。相談に対応した数でもいいと思う。市の施策としてできることとしては、体制を整えることではないか。(林委員長)
- アドバイザーの派遣状況など市の対応について確認する。(事務局)
- 不登校の児童生徒が登校できるようになった件数はわかるのか。(小澤委員)
- 確認する。(事務局)
- 遅延となっている「小中一貫共通カリキュラムの実施率」について確認したい。(林委員長)
- 事業としては計画通り実施しているが、K P I の達成率計算上、60%に達していないので遅延となっている。(事務局)
- これについては「順調」としたい。(林委員長)
- 最後の「学校への支援ボランティアに参加した延べ人数」が遅延となっている。(林委員長)
- ボランティアの数は減っているが、総数のみで判断できないため、内訳について確認して次回の会議でお示しする。(事務局)
- 議題3について、「3. あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり」については、遅延した事業を中心に確認した。他に次回までに事務局に確認しておきたいことなどがあればご意見をいただきたい。(林委員長)
- 特に無いようなので議題3については、これで終了したい。(林委員長)

4 今後のスケジュールについて

次回は10月2日（火）に開催する。

| |
|-----|
| 意見等 |
| なし |